

參拾五部ノ内第 15 號

御前會議經過

46

日時 昭和二十年六月八日午前十時五分開會
午前十一時五十分終了

場所 宮内省第二期聯合表拜謁禮間

U 44

0484



7

0485

○出御

○内閣總理大臣

是ヨリ開會致シマス。御許シテ受ケマシタノデ私ガ議事ヲ進メル
コトト致シマス。本日ノ議題ハ「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」
デアリマス。

本問題ヲ研究スル前提ト致シマシテ、先ツ國力ノ現状ニ關シテ一
應検討致シ度イト思ヒマス。綜合計畫局長官ヲシテ朗讀致サセマス。

○綜合計畫局長官

「國力ノ現状」朗讀

○内閣總理大臣

次ニ世界情勢判断ニ關シ關係各省ニ於テ研究シ之ヲ綜合致シマス

タセノヲ内閣書記官長ヲシテ朗讀致サセマス。

○内閣書記官長

「世界情勢判断」朗讀

○内閣總理大臣

次ニ陸海軍統帥部ニ於カレテ今後ノ作戰ニ關スル所見ヲ御述ベ願

ヒ度イト存ジマス。

○參謀總長代理 參謀次長 發言

○軍令部總長 發言

○内閣總理大臣

以上承ツタ所ニ關シテ御列席ノ各位ヨリ順次所見ノ御開陳ヲ願ヒ

度イト思フノデアリマスルガ、先ツ軍需大臣ヨリ軍需生産ニ關シテ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマス。

○軍需大臣 發言

○内閣總理大臣

次ニ農商大臣ヨリ食糧事情ニ關シテ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマス。

○農商大臣 發言

○内閣總理大臣

次ニ外交上ノ問題ニ關シテ外務大臣ヨリ御話ヲ願ヒ度イト思ヒマ

ス。

○外務大臣 發言

000 47

0488

○内閣總理大臣

尙御列席ノ樞密院議長、陸海軍大臣、南總長ヨリ御所見ガゴサイ
マヌルナラバ此ノ際御述ベキ願ヒ度イト思ヒマス。

○平沼樞密院議長 發言

○内閣總理大臣

以上御話ヲ綜合致シマスルト、今後採ルベキ戦争指導ノ大綱ハ概
ホ一昨日最高戦争指導會議ニ於テ審議致シマシタル所ニ歸スルモノ
ノ如ク存ゼラレマスカラ、茲ニ一昨日右會議ニ於テ審議致シマシタル
ル「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」ヲ議案トシテ審議致シタラシ

000 48

0489

如何カト思ヒマス。

先ヅ内閣書記官長ヲシテ之ヲ朗讀致サセマス。

○内閣書記官長

「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」朗讀

○内閣總理大臣

本議題ニ付テ皆様ヨリ御意見ヲ御述ベ願ヒ度イト思ヒマス。

(發言無シ)

50

00 49

0490

○内閣總理大臣

別ニ御發言モナイヤウデアリマスカラ、本案ニ御異議ナキモノト認メテ宜シウ御座イマセウカ。

○内閣總理大臣

別ニ御異議モナイモノト認メマス。

○内閣總理大臣

本件「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」ニ從ヒ今後政府、統帥部ハ眞ニ一体トナツテ之ガ實現ニ努メテ參ル次第デアリマスルガ、本件ハ本日ハ論議ニ徴シテモ明カナル通り、政府竝ニ統帥部ニ於テハ並々ナラヌ努力ヲ致スコトガ必須ノ前提要件トナツテ居ルノデア

リマス。統帥部ニ於カレマシテハ眞ニ陸海一体ノ綜合作戦ノ妙ヲ發
揮セラレマスルヤウニ御願ヲ致シマスルト同時ニ、政府ノ側ニ於キ
マシテモ本大綱就中其ノ第二項及第三項ニ付テハ閣僚一同言葉ノ通
リ必死ノ決心ヲ以チマシテ之ガ具現ニ努力致シマシテ、奮ツテ本大
綱ニ示サレタル方針ノ完遂ニ邁進致ス覺悟デゴザイマス。

現下帝國ノ情勢ハ眞ニ危急デゴザイマス。謂ハバ死中ニ活ヲ求ム
ルノ立場ニ在ルトモ申スコトガ出來ルト思フノデゴザイマスルガ、
是ハ筆統ナル
智謀トカ才覺トカヲ以テハ能クシ得ナイ所デゴザイ
又シテ、簡明直截、右瞻左眈スルコトヲダシ、奮ヲニ助信ニ向ツテ邁

送スル外ハナイノデアリマシテ、此處ニ私共政府ノ覺悟ヲ申上ゲテ
置ク次第デゴザイマス。

之ヲ以テ閉會致シマス。

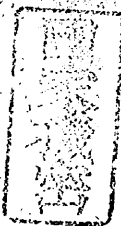
○内閣總理大臣入御奏請

○入御

53

000 52

0493



四 輸 部 ノ 内 第 16 號

御前會議ニ於ケル軍需大臣發言要旨 (三〇六八)

軍需生産並ニ物的國力一般ノ現状ニ關シテハ綜合計畫局長官ノ説明ノ
 通デアリマスガ第一・四半期ノ實施狀況ヲ見マスルニ海上輸送力ニ付
 キマシテハ總量的ニハ概ネ最低目標ヲ確保シ得ベキ見込デアリマスガ
 大陸穀類、鹽ニ關シテハ港灣荷役力ノ不足、機雷投下等ノ爲相當実績
 不良デアリマシテ或ハ第一・四半期計畫量ヲ上半期ニ於テ實行シ得ル
 程度ニ止マリ第二・四半期計畫分ハ殆ンド期待シ得ザル狀況ニ陥ルコ
 トナキヲ保シ得ザルコトヲ惧ルル次第デアリマス 又石炭ニ關シテモ
 前記卜略、同様ノ原因ニヨリ鐵道及機帆船ノ輸送実績十分ナラズ之ガ
 爲重要物資ノ生産モ相當計畫ヲ下廻ル狀況デアリマス

次ニ第二。四半期ノ軍需生産ハ海陸輸送力ノ推移ニ左右セラルルコト最モ大デアリマスガ汽船輸送力ハ主トシテ空襲ノ激化ニ依リ前期ニ比シ更ニ著シク低下スベク大陸糧穀及鹽ノ輸送ニ重點ヲ置キマストキハ軍需生産關係トシテハ僅少ナル石炭ヲ輸送シ得ルニ止リ機帆船輸送力及鐵道輸送力ニ付テモ空襲ニヨリ前期ニ比シ相當低下スルモノト思料セラレマス

右ノ如キ海陸輸送力ノ低下ハ惹イテ軍需生産ノ基盤タル本州中樞部ノ石炭配當量ヲ前期ニ比シ相當大瘡ニ低下セシメ産業稼働ハ前年同期ノ三割内外ニ低下スルモノト豫想セラレ特ニ重要ナル軍需關係資材ノ生産ニ於テモ前期ノ六割乃至七割程度ニ低下スルモノト豫想セラレマス

尙ホ航空兵器ニ關シマシテ現狀ニ著シキ變止ニテ
ハ概ネ當初計畫ノ六割程度即チ月二〇〇〇機程度ノ生産ヲ維持シ得ル
見込デアリマスガ疎開ヲ必要トスル實狀ニアリマスト航空工業ガ綜
合工業タルノ特性ニ鑑ミ他ノ關聯工業ノ生産ガ減退スレバ其ノ影響ヲ
蒙ルコトハ免レ得ナイト考ヘマス
而シテ若シ沖繩ノ戰局最惡ノ事態ニ陥ルガ如キ場合ヲ想定致シマス
ト軍需生産ハ更ニ悪化スル懼ガ頗ル大デアリマス
以上ノ如キ狀況デアリマスノデ今後ノ軍需生産維持ハ主トシテ海陸輸
送力ノ確保如何ニ關シマスルガ故ニ兩統帥部ニ於テハ空襲ニ對スル海
陸輸送機關ノ防衛ニ關シ強力ナル措置ヲ講ゼラレンコトヲ特ニ要望ス

本半期ニ於テ

ル次第デアリマス

以上申述ベマシタルガ如ク情勢ノ推移ニ依リマシテハ先ニ綜合計畫局長官ノ述ベラレタル生産ノ見透ハ更ニ急激ニ悪化スル可能性ガアルノデアリマスガ前者ノ見透程度ノ生産ヲ遂行致シマスルガ爲ニモ容易ナラヌ決意ヲ要スルモノト考ヘマス依テ軍需生産ニ従事スルモノト致シマシテハ一方軍部ハ素ヨリ各關係者ト緊密ナル聯結ヲ保持シ生産意欲ノ激發精神ノ昂揚及國力ノ急速ナル戦力化ニ對シテアラユル手段ノ方途ヲ採リマスルト共ニ他方軍需行政ニ關スル關係省ノ職域ヲ明定シ其ノ職域トスル所ニ付テハ全責任ヲ以テ果敢ニ其ノ任務ヲ遂行シ得ル如キ方策ニツキ速急ニ所要ノ措置ヲ講ズルコトガ絶對ニ必要ト存スル次第デアリマス

0497



五十部ノ内第 23 號

御前會議ニ於ケル外務大臣兼大東亞大臣發言要旨

米英、蘇聯及重慶ノ動向ニ就テハ概略ハ「世界狀勢ノ判斷」ニ於テ陳述ノ通りテ御座イマスガ、之ニ關聯シ若干所見ヲ申上ケ度イト存ジマス。

第一點ハ主ナル點ニ於テ米國ノ戰爭指導ニ關シテ御座イマス、米國ハ内外ニ於テ或程度ノ困難ニ遭遇シテ居ルノハ事實ト認メラレマスガ、帝國ヲ比較的ニ短期間ニ屈伏セシメ待ベシトノ自信ヲ固メテ居ル模様デアリマシテ、帝國ニ對シ無條件降伏ヲ強制セントスル意圖ヲ堅決シテ居ルガ如ク、對日戰意ノ喪失ヲ近キ將來ニ期待スルコトハ不可能ナリマス。而シテ英國ハ結局米國ニ追從スルノ外ヤク、兩者ノ間隙ニ乘ス

56

レ餘地モ先ヅ無イノデ御座イマス。

第三點ハ米英對蘇聯ノ確執ニ關スル見透シテ御座イマス、對獨戰爭ノ終了ガ米英蘇間ノ協調ヲ弛緩セシムル一材料タルコトハ否定シ得ナイ所デアリマシテ、獨逸其他歐洲各國ノ戰後處理、近東問題、世界平和機構等ニ付キ、今後米英對蘇聯ノ間ニ移多ノ確執ガ起ルコトハ豫想ニ難カラザル所デ御座イマスガ、他面米英側モ又蘇聯側モ、戰後ノ平和維持ノ可能性、從ツテ戰勝ノ結果ヲ確保シ得ベキ可能性ハ懸ツテ三國間ノ大局的協調ノ持續如何ニ在リト認識シテ居リマス關係上ハ大東亞戰事繼續中ニ右協調ガ破局ニ陥ルガ如キコトハ容易ニ期待シ得ザルコトヲ御座イマス。

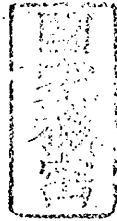
58

第三點ハ蘇聯ノ對日動向ニ關聯シテテ御座イマスガ蘇聯ハ昨年十一月「スターリン」ガ日本ヲ侵略國ト呼ビ、本年四月五日ニ至リ中立條約ノ繼續ヲ不可能ナリト通告シ來レル以後ハ、事實上ハ帝國ニ對シ何時ニテモ敵對關係ニ入り得ル態勢ヲ整へ來ツタノデ御座イマス 元來戰時ニ於テハ外交ハ軍事ト表裏一体ヲ爲スモノデアリマシテ、外交戰局ノ進展ニ由リ多大ノ影響ヲ受ケマスノミナラズ、外交交渉ノ成否モ之ニ依ル所大ナル次第デアリマスルカラ、蘇聯ヲシテ中立ヲ守リ通セシ得ルヤ否ヤモ、窮極ニ於テ戰局ノ推移ニ左右セラレル所ガ渺クナイノデ御座イマス。然ルニ近來蘇聯ハ日本ガ遂ニハ米國ノ軍力ニ壓倒セラレル可能性大ナリト見テ居ル模様デアリマスカラ、蘇聯ヲシテ中

立ヲ維持セシムル爲ノ外交ハ極メテ困難デアルト申サネバナリマセヌ
ガ、帝國ガ米英ト死力ヲ竭シテ戦ヒ居ル今日蘇聯ノ參戰ヲ見ルガ如キ
場合ニハ我死命ヲ制セラルル次第デアリマスルカラ、外交當局トシテハ
蘇聯ヲシテ中立ヲ維持セシムル爲萬般ノ努力ヲ拂ツテ居ル次第デ御座
イマス。但シ右様ノ次第デ御座イマスカラ、嚴正中立以上ニ我方ニ好
意的ナル態度ヲ執ラシムルガ如キコトハ戦局ノ推移裕馭ニ帝國ニ有利
トナラザル限り殆ダ不可能ト申ス位至難デ御座イマスカラ、此ノ種好
意的態度ヲ見越シテ指導方針ヲ決定スルカ如キハ嚴ニ慎ムヘキコトト
考ヘラルル次第デ御座イマス。

最後ニ重慶ニ就テ簡單ニ申上げ度イノデ御座イマス從來ヨリ重慶工作

ナルモノガ幾度カ試ミラレテ來タノデ御座イマスガ、國際政局及
戰局ノ現段階ヨリ見マシテ單ニ日支間ノミノ全面和平ガ實現至
ナルハ勿論デ御座イマシテ、此ノ如キ工作ハ重慶ノ對日謀略ニ乘
ゼラレ、少クトモ重慶ノ戰意ヲ強化スル結果ニ陥ツタノデ御座イ
マス。尙又米支關係ヲモ考慮ニ容レタル日支全面和平ノ可能性如
何ト申シマスレバ、之レハ日米間ノ和平トモ相成リマスノデ現在
ノ處實現不可能ナルコトハ明カデ御座イマスガ、重慶ニ對シテ
ガ公正ナル態度ヲ示シ政治攻勢ヲ執ルコトハ軌道ニ乗ツタモノ
御座イマスノデ今後共勢力ヲ續クル必要ト價值トガアルト存ズル
次第デ御座イマス。



参拾五部ノ内第 13 號

御前會議ニ於ケル内閣總理大臣發言要旨

本件「今後採ルベキ戦争指導ノ基本大綱」ニ從ヒ今後政府、統帥部
 ハ眞ニ一體トナツテ之ガ實現ニ努メテ參ル次第デアリマスルガ、本件
 ハ本日ノ論議ニ徴シテモ明カナル通り、政府政ニ統帥部ニ於テハ並々
 ナラヌ努力ヲ致スコトガ必須ノ前提要件トナツテ居ルノデアリマス。
 統帥部ニ於カレマシテハ眞ニ陸海一體ノ綜合合作戰ノ妙ヲ發揮セラレマ
 スルヤウニ御願ヲ致シマスルト同時ニ、政府ノ側ニ於キマシテモ本大
 綱就中其ノ第二項及第三項ニ付テハ閣僚一同言葉ノ通り必死ノ決心ヲ
 以テマシテ之ガ具現ニ努力致シマシテ、誓ツテ本大綱ニ示サレタル方

00. 60

0503

針ノ完遂ニ邁進致ス覺悟デゴザイマス。

現下帝國ノ情勢ハ眞ニ危急デゴザイマス。謂ハバ死中ニ活ヲ求ムルノ立場ニ在ルトモ申スコトガ出來ルト思フノデゴザイマスルガ、是ハ單純ナル智慧トカ才覺トカヲ以テハ能クシ得ナイ所デゴザイマシテ、簡明直截、右顧左盼スルコトナク、茲ラニ所信ニ向ツテ邁進スル外ハナイノデアリマシテ、此處ニ私共政府ノ覺悟ヲ申上ゲテ儆ク次第デゴザイマス。